

平成 26 年 度

事業報告書

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

学校法人 志學館学園

目 次

I 建学の精神	P.1
II みおしえ	P.1
III 志學館学園の概要	P.2～9
1. 各学校の基本理念等	P.2～3
(1) 志學館大学	P.2
(2) 鹿児島女子短期大学	P.2
(3) 志學館高等部・中等部	P.2～3
(4) 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園	P.3
(5) なでしこ保育園	P.3
2. 志學館学園の沿革	P.3～4
3. 志學館学園の組織	P.5
4. 各学校等の所在地	P.5
5. 志學館学園の役員	P.6
6. 各学校の状況	P.7～9
(1) 平成 26 年度 入学定員・収容定員及び学生・生徒・園児数	P.7
(2) 平成 27 年度 入学定員・入学者数	P.8
(3) 平成 26 年度 教職員数	P.9
IV 各学校の事業報告	P.10～22
1. 学園本部	P.10～11
2. 志學館大学	P.11～13
3. 鹿児島女子短期大学	P.13～14
4. 志學館高等部・中等部	P.15
5. 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園	P.16～17
6. 鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園	P.17～18
7. 鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園	P.18～19
8. なでしこ保育園	P.19～20
事業報告 用語解説	P.21～22
V 財務の概要	P.23～
1. 平成 26 年度決算の概要	P.23～24
2. 消費収支計算書（5 年推移）	P.25
3. 資金収支計算書（5 年推移）	P.26
4. 貸借対照表（5 年推移）	P.27
5. 文部科学省 定量的な経営判断指標に基づく経営状態（5 年推移）	P.28
6. 財務分析	P.29
学校法人会計用語解説	P.30
7. 監査報告書	P.31

I 建学の精神

「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」

- 「時代に即応した」とは、情勢の変化に対応して、合理的で効果的、かつ弾力的な運用を図るべきことを意味する。
- 「堅実にして」とは、人間としての教養・徳をつけること、つまり人間としての豊かさ等を意味していると解釈する。
- 「有為な人間」とは、豊かな人間性の上に、健康な体、強い意志、創造力と企画力、集団への適応と貢献の能力、科学や情報に対する理解と技術、国際人としての教養等を身につけ、国家・社会の発展に寄与しうる人間、即ち「実用」と「教養」を実現できる総合力を身につけた人間をさすものである。

II みおしえ

雪のごとく清らかに

月のごとく明らけく

花のごとく撫子の強くやさしく

創設者満田ユイは、「建学の精神」を具体的に実践する時の心構えとして親しみやすく理解するようにと、中国の詩人、白居易の詩を引用し、それになぞらえて「みおしえ」とした。根底に「人間愛」を含んだ上で、詩にある「雪、月、花」になぞらえて、雪は「清浄と貞節」を、月は「聡明な明るさと静寂」を、花は「大和撫子を現し、日本女性の美徳とやさしさと芯の強さを現すもの」として説明した。

しかし、1986年「建学の精神」の改訂を機に、今ではその女性的な文体表現にかかわらず「清く、明るく、強く、やさしく」というその内容が人間としての在り方、人の美しい生き方を表すものとして脈々と学園に継承されている。

現在「雪、月、花」は「建学の精神」を具体的に実践する時の心根を象徴するものとして、学園章・校章・学園旗及び校旗となっている。

Ⅲ 志學館学園の概要

1. 各学校の基本理念等

(1) 志學館大学

【基本理念】

豊かな教養に裏付けられた実践力と学ぶことへの高い志を持つ人間の育成

【使命】

広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって文化の創造と社会の充実発展に寄与するため、人間と社会に対する深い関心と識見を持ち、専門的知識・技能を身につけ、社会に貢献する幅広い職業人を育成する。

【教育目的】

- 1 個性の伸張をはかり、自主的・創造的な人間を育成する。
- 2 豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけ、常に課題意識を持ち、学ぶことの喜びを知る人間の育成に努める。
- 3 実践・臨床に重きを置いた教育を行い、また、将来を見据えたキャリア教育を組織的段階的に行う。
- 4 国際理解の教育を推進し、国際人として活躍する素地を培う。
- 5 社会に開かれた大学として、地域社会の発展と生涯学習の促進に力を注ぎ、社会人の学習意欲に応える。

(2) 鹿児島女子短期大学

【教育理念】

学園の伝統を継承しつつ、最新の知識と専門の学芸を教授研究し、創造力・実践力に富み、家庭に社会に個人の持つ可能性を具現できる高い教養と人間性豊かな女性を育成するとともに、国際的視野に立って社会の充実発展に寄与する人材の育成に努める。

【教育方針】

- 1 豊かな情操と高い教養を培い、心身ともに健康で調和のとれた人間像を目指して自己啓発を促す。
- 2 現代生活に即した専門的知識と実践的スキルを習得させ、自ら課題に対応する能力と創造性の発揚に努める。
- 3 人間関係に適切に対応でき得る能力を養成し、その能力を円滑に機能させる社会性を培う。
- 4 自ら判断し行動する主体性を涵養し、家庭や職場の有為な人材の育成に努める。
- 5 国際理解の教養と態度を育成し、洗練された国際人となる素地を習得させる。

(3) 志學館高等部・中等部

【教育理念】

清新な発想のもとに「たしかな学力、ゆたかな人間性、たくましい行動力」を身につけた心身ともに健やかな人間を育成する。

【教育方針】

男女共学の進学校として学力開発と人間性開発を推進し、個性の伸張を図るとともに高い教養、豊かな情操を養い、意欲と情熱をもった自己教育力のある人間を育成する。

(4) 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園

【教育目標】

一人ひとりの幼児の個性を伸ばし、豊かな心情や主体性・創造性を育て、心身ともに健全な人間の生きる力の基礎を培う。

【めざす幼児の姿】

げんきであかるい子 なかよくあそぶ子 よくかんがえくふうする子

(5) なでしこ保育園

【保育方針】

- 1 一人一人を大切に丁寧な保育を行い、自立した生活習慣を身につけ、健康な体、豊かな情緒、素直な表現力をもてる子どもの育成に努める。
- 2 身近な環境や自然と触れ合う中で豊かな感性を育み、創造力をふくらませ、友達との関わりの中で秩序や協調性をもてる子どもの育成に努める。

【保育の目標】

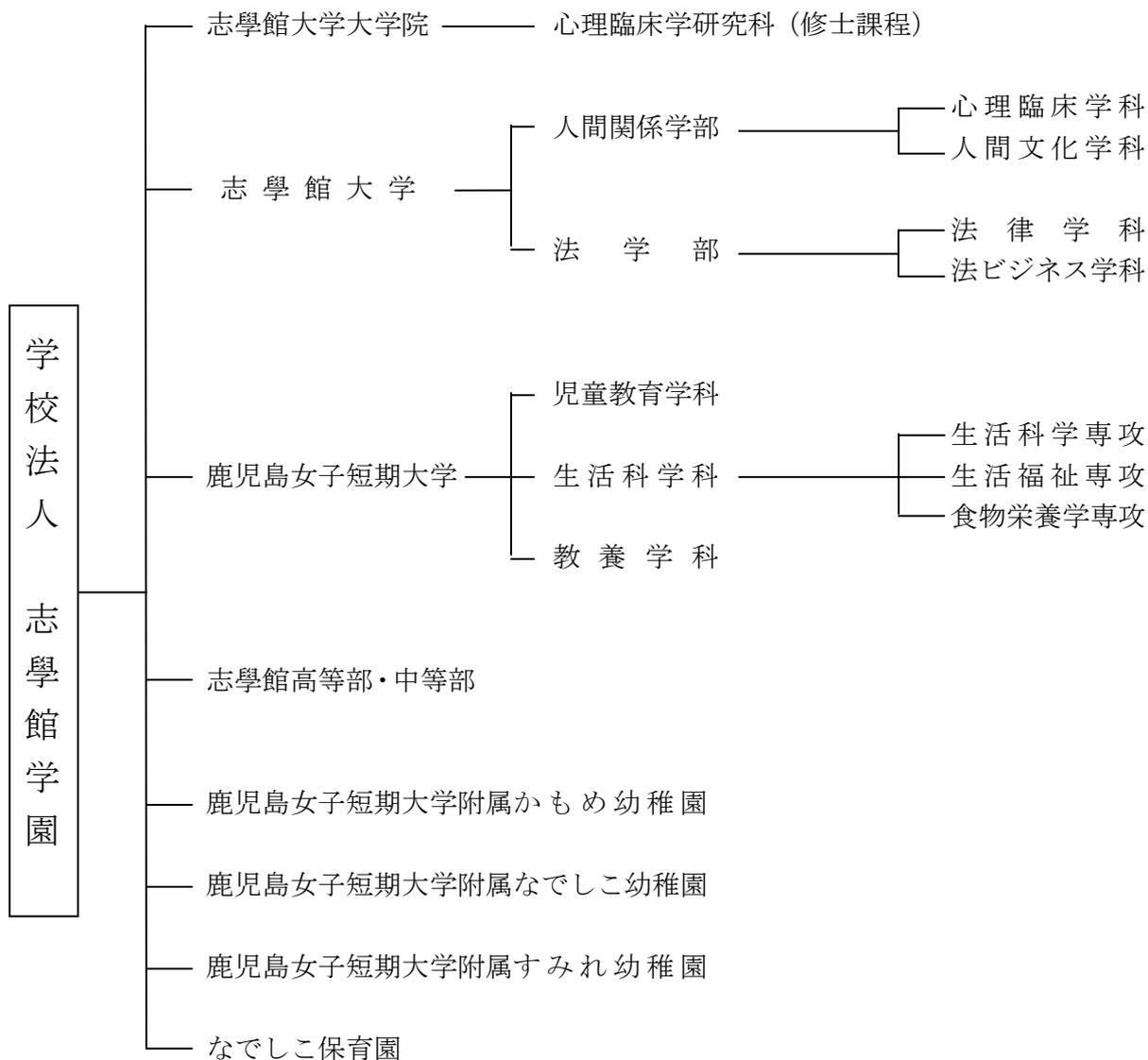
「一人一人を大切に感性豊かな子ども」の育成を目指す。

2. 志學館学園の沿革

明治40年	8月	鹿児島女子手藝伝習所開設
41年	2月	鹿児島女子技藝學校設置認可
大正15年	6月	鹿児島女子技藝學校の名称を鹿児島高等實踐女學校と改称認可
昭和23年	4月	学校教育法第1条に定める高等学校に昇格、鹿児島実践女子高等学校と改称
	4月	財団法人実践学園設立認可
26年	2月	財団法人の組織を変更し、私立学校法に定める学校法人実践学園設立認可
31年	4月	鹿児島実践女子高等学校全日制普通科開設
35年	4月	鹿児島実践学園幼稚園教員養成所開設（昭和41年3月31日廃止）
38年	5月	鹿児島実践女子高等学校附属かもめ幼稚園設置認可
40年	1月	鹿児島実践女子高等学校附属かもめ幼稚園を鹿児島女子短期大学附属かもめ幼稚園と改称認可
	4月	鹿児島女子短期大学開設（幼児教育科）
41年	4月	鹿児島女子短期大学家政科開設
42年	4月	鹿児島女子短期大学教養科開設

42年	12月	鹿児島女子短期大学家政科を食物栄養学専攻、家政専攻に専攻分離認可	
43年	4月	鹿児島女子短期大学幼児教育科を児童教育科に改称	
	4月	鹿児島実践女子高等学校に食物科設置	
46年	4月	鹿児島女子短期大学児童教育科を児童教育学科とし、その専攻を初等教育学専攻、幼児教育学専攻。家政科を家政学科とし、その専攻を家政学専攻、食物栄養学専攻。教養科を教養学科とし、それぞれ学科名、専攻名を名称変更	
49年	4月	鹿児島女子短期大学附属なでしこ幼稚園開設	
50年	4月	鹿児島女子短期大学家政学科の専攻を被服学専攻、家政学専攻、食物栄養学専攻に分離変更	
54年	4月	鹿児島女子大学文学部（国文学科・英文学科・人間関係学科）開設	
58年	4月	鹿児島実践女子高等学校の校名を鹿児島女子大学附属高等学校と改称	
61年	4月	鹿児島女子短期大学附属すみれ幼稚園開設	
62年	4月	志學館中等部開設	
63年	4月	鹿児島女子短期大学専攻科（児童教育専攻・家政専攻・食物栄養専攻・教養専攻）開設	
平成	1年	4月	鹿児島女子短期大学家政学科を生活科学科に名称変更
	2年	4月	志學館高等部開設
	4年	4月	鹿児島女子大学文学部英文学科を英語英文学科に改称
	7年	4月	鹿児島女子短期大学専攻科家政専攻を生活科学専攻に改称
11年	4月	4月	学校法人実践学園を学校法人志學館学園と改称
		4月	鹿児島女子大学を志學館大学と改称し、法学部法律学科を開設
		4月	鹿児島女子短期大学生活科学科に生活福祉専攻を開設
		4月	鹿児島女子大学附属高等学校を鹿児島学芸高等学校と改称
15年	4月	志學館大学文学部を募集停止し、人間関係学部心理臨床学科・人間文化学科を開設	
17年	4月	志學館大学大学院心理臨床学研究科（修士課程）設置	
18年	3月	鹿児島学芸高等学校廃止	
19年	4月	学校法人志學館学園 なでしこ保育園開設	
20年	4月	志學館大学法学部法ビジネス学科開設	
21年	4月	鹿児島女子短期大学を鹿児島市紫原から鹿児島市高麗町へ移転	
22年	4月	鹿児島女子短期大学児童教育学科の専攻を廃止し学科に統合	
23年	4月	志學館大学を霧島市隼人町から鹿児島市紫原へ移転	

3. 志學館学園の組織



4. 各学校等の所在地

- | | |
|-------------|-----------------|
| ・志學館学園法人本部 | 鹿児島市高麗町5-27 |
| ・志學館大学 | 鹿児島市紫原1-59-1 |
| ・鹿児島女子短期大学 | 鹿児島市高麗町6-9 |
| ・志學館高等部・中等部 | 鹿児島市南郡元町32-1 |
| ・かもめ幼稚園 | 鹿児島市紫原1丁目19-20 |
| ・なでしこ幼稚園 | 鹿児島市明和2丁目41-1 |
| ・すみれ幼稚園 | 鹿児島市皇徳寺台4丁目44-1 |
| ・なでしこ保育園 | 鹿児島市明和2丁目41-1 |

5. 志學館学園の役員〔平成27年3月31日現在〕

*理事 7人以上9人以内 現員8人

役員名	勤務	氏名	現職
理事長	常勤	志賀 啓一	志學館学園理事長
理事	〃	志賀 壽子	志學館学園学園長
〃	〃	清水 昭雄	志學館大学学長
〃	〃	阿部 哲郎	志學館学園本部事務局長
〃	〃	幾留 秀一	鹿児島女子短期大学学長
〃	非常勤	井手 三郎	学校法人聖マリア学院理事長
〃	〃	日高 旺	元鹿児島テレビ放送(株)代表取締役社長
〃	〃	永山 在紀	南国殖産(株)代表取締役社長

*監事 2人又は3人 現員2人

役員名	勤務	氏名	現職
監事	非常勤	海江田 順三郎	高島屋開発(株)相談役
〃	〃	大津 学	(株)大津倉庫代表取締役社長

*評議員 17人以上19人以内(ただし、理事の2倍を超える人数)

現員 志賀 啓一 他16名

6. 各学校の状況

(1) 平成26年度 入学定員・収容定員及び学生・生徒・園児数

平成26年5月1日現在

学校名	学部・学科・課程名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
志 學 館 大 学	大学院	人	人	人	人
	心理臨床学研究科	10	11	20	22
	人間関係学部				
	心理臨床学科	120	139	486	535
	人間文化学科	50	53	204	245
	学部計	170	192	690	780
	法学部				
	法 律 学 科	70	64	276	283
	法ビジネス学科	60	38	254	183
	学部計	130	102	530	466
	計	310	305	1,240	1,268
鹿 児 島 女 子 短 期 大 学	児童教育学科	240	264	480	521
	生活科学学科				
	生活科学専攻	30	25	70	60
	生活福祉専攻	30	22	70	45
	食物栄養学専攻	100	71	200	162
	学科計	160	118	340	267
	教養学科	100	92	200	187
	計	500	474	1,020	975
志 學 館 高 等 部		160	99	480	312
志 學 館 中 等 部		120	89	360	265
か も め 幼 稚 園		—	—	260	207
な で し こ 幼 稚 園		—	—	240	126
す み れ 幼 稚 園		—	—	180	189
学園合計		1,090	967	3,780	3,342

【附帯事業】

な で し こ 保 育 園		—	—	40	41
---------------	--	---	---	----	----

(2) 平成 27 年度 入学定員・入学者数

平成 27 年 4 月

学校名	学部・学科・課程名	入学定員	入学者数
志 學 館 大 学	大学院	人	人
	心理臨床学研究科	10	10
	人間関係学部		
	心理臨床学科	120	114
	人間文化学科	50	54
	学部計	170	168
	法学部		
	法 律 学 科	70	75
	法ビジネス学科	60	47
	学部計	130	122
	計	310	300
鹿児島女子短期大学	児童教育学科	240	264
	生活科学科		
	生活科学専攻	30	30
	生活福祉専攻	30	17
	食物栄養学専攻	100	64
	学科計	160	111
	教養学科	100	96
	計	500	471
志 學 館 高 等 部		160	96
志 學 館 中 等 部		120	110

(3) 平成 26 年度 教職員数

平成 26 年 5 月 1 日現在

学校名		理事長	教育職員	事務職員等	合 計
志 學 館 大 学			54	34	88
鹿児島女子短期大学			54	29	83
志 學 館	高等部		23	5	28
	中等部		20	6	26
	小 計		43	11	54
かもめ幼稚園			14	2	16
なでしこ幼稚園			10	2	12
すみれ幼稚園			12	2	14
法 人 本 部		1	0	13	14
合 計		1	187	93	281
なでしこ保育園					14
合計 (含む保育園)					295

* 上記は専任教職員数

IV 各学校の事業報告

【事業計画の進捗状況】

達成度	A	B	C	D	E	その他	計
(達成率)	100～ 81%	80～61%	60～41%	40～21%	20～0%		
大学	23	17	7	2	1	0	50
短大	28	15	0	0	0	0	43
中・高	10	30	0	0	0	0	40
かもめ	6	2	0	0	0	0	8
なでしこ	5	5	0	0	0	0	10
すみれ	3	6	1	0	0	0	10
保育園	4	5	0	0	0	0	9
本部	4	8	2	0	0	0	14
計	83	88	10	2	1	0	184

1. 学園本部

1. 事業計画の総評

平成 26 年度は「中期事業計画（2013-2015）」の計画中間年度である。学園本部においては、事業計画項目を 14 項目設定し、より高いレベルでの計画達成に向けて取り組んだ。

各事業項目の達成状況は、達成率が 60% を超えている事業項目が全体の 8 割を超えており、概ね堅調な進捗状況であった。主要な事業項目については、「教育環境（施設・設備等）の充実」、「安定した財政基盤の確立」、「補助金制度の積極的活用」、「学園施設設備投資 4 か年計画の推進」等において成果が上がっている。また、達成率が 60% に満たなかった事業項目については、来年度以降の課題として引き続き対応を進める。

平成 27 年度は「中期事業計画（2013-2015）」の最終年度となるが、各事業項目の重要度、優先順位、進捗状況を考慮のうえ、計画の確実な推進を図る。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 「個人力」の強化

- ・「長期的・計画的な人材育成」においては、教職協働の取り組みについての活動報告会を実施するなど、組織における活動内容の浸透を図った。
- ・「自己啓発制度の見直し」では、外部の通信講座を利用し、職層、経験などに応じたカリキュラムにより自己啓発を実施した。

(2) 「組織力」の向上

- ・「経営・管理体制の強化」においては、PDCA サイクルに基づいた経営計画の進捗が図られるとともに、コンプライアンス活動、内部監査等が計画通り推進された。
- ・「全学一体感の醸成と連携強化の推進」の一環として、「学園のタベ」を11月に開催し、交流機会の創出を図った。
- ・「募集力・広報力の強化」については、各設置校と連携した募集力・広報力の強化に取り組んだ結果、学園全体における在籍者数の増加を実現した。また今年度は、設置校を横断した新しい取組として、沖縄での合同説明会や日本留学フェア（台湾）への参加等を行った。
- ・「教育環境（施設・設備等）の充実」については、営繕工事の計画的な実施に加え、大学における大型バスの導入や幼稚園バスのリニューアル等を実施した。
- ・「ICT 環境の充実」については、全設置校を横断した募集管理システムの導入や幼稚園・保育園へのタブレット端末の導入など、新しい取組を実施した。また補助金制度を積極的に活用することにより、支出削減と ICT 環境の高度化を実現している。

(3) 「財務基盤」の確立

- ・平成 26 年度予算は確実に執行され、予算編成方針に沿って、帰属収支差額比率 10%以上を維持するなど、財務基盤の強化が図られた。教育研究経費比率は前年度の 22.8%より向上し、24.7%を確保した。
- ・補助金については、設置校間において、補助金制度等に関する情報共有及び収入増を目的とした取り組み活動等の連携強化に取り組んだ。
- ・寄付金募集や収益事業等における収入増への積極的な取り組みに加え、来年度以降の導入に向けて新しい寄付金受付の仕組みの検討に着手した。

(4) 重点計画の推進

- ・「学園施設設備投資 4 か年計画」については、「志學館中高等部体育倉庫及び更衣室の新築」、「大学学生会館の耐震実施設計及び耐震補強工事」、「短大西館の耐震実施設計及び耐震補強工事」等を完了させる等、年度計画は確実に推進された。
- ・「認定こども園への移行」については、検討を重ねた結果、附属三幼稚園は平成 27 年度は移行しないこととした。今後は情勢を注視しつつ、適宜対応をしていく。保育園は新制度へ移行するが、運営等についての変更はない。

2. 志學館大学

1. 事業計画の総評

平成 26 年度は、それぞれの担当部署が現状を把握した上で、中期事業計画の計画項目及び年度計画を念頭に置き事業に取り組んだことにより、事業項目 50 項目のうち達成率が 60%を超えるものが全体の 8 割となり、概ね順調な事業遂行であった。また、達成度の低い項目については、事業項目の見直し等を含め、来年度も引き続き検討し

ていく。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 大学経営の強化

- ・入学者数確保に向けては、「スポーツ AO 入試」や「入学試験前経済特待予約制度」等の導入により、県内シェア向上につながる入学者確保はできたことから、まずまずの成果であったと言える。
- ・各学科でアドミッションポリシーの見直しを行った。これにより、学科の特色に沿った学生募集をより適切に行えるようになった。
- ・事務職員の育成の面については、計画的な係替等を実施するとともに、課の垣根を越えた「ALL 事務局」の意識の浸透を図り、学生を第一とする横断的・機動的な事務局体制への基盤整備を行った。

(2) 設置校間連携の強化

- ・短大との連携事業として、今年度初めて公開講座「学校臨床セミナー」を共催し、受講者から好評を得た。来年度以降も連携事業として開催していく。
- ・「心理相談センター」及び「発達支援センター」における設置校への支援が定着し内容も充実してきた。今後は、院生の実習やコンサルテーションを通じて、更に連携を図っていく。

(3) ステークホルダーへのアプローチの充実

- ・同窓会と大学の連携を図るために、同窓会事務担当者と総務課長が適宜連絡を取る体制を整えた。
- ・後援会については、4 支部の各総会に教職員が出席し大学と後援会との意思疎通を深めたことで、後援会による学食改善の支援、银杏祭への協力、卒業祝賀会の共催等、学生のための具体的な行事、活動等の実施に繋がった。引き続き後援会、同窓会との連携強化を図っていく。

(4) 教育・研究活動の一層の充実

- ・来年度からの実施に向け、「第二次教育改革基本方針」に基づく「第二次教育改革実施案」を策定した。
- ・e ポートフォリオの活用については、システム上で不具合が生じた部分があり十分に活用されたとは言い難いため、早急に改善を進める。
- ・タブレットの活用を見据えた教職員向けの研修会を実施した。今後も定期的に研修会を行うことで、更なる e ラーニングの推進を図っていく。

(5) 学生への支援の充実

- ・進路支援講座の拡充の他、指導教員、企業及びハローワークとの連携を密に図る等の進路支援策の強化を図った結果、昨年度より高い就職率(98.8%)を得ることができた。
- ・「学生支援センター(修学支援室)」を整備、専任のカウンセラーを配置し、急激に増加している様々な問題を抱える学生の支援に向けて体制を強化した。

(6) 国際交流の推進

- ・協定校との交換留学生の派遣、受入れは例年通り実施した。留学生の満足度向上のため、交換留学生へアンケート調査を行い、生活環境の改善に取り組んだ。
- ・剣道部が英国遠征を行い、インペリアル大学剣道部等と親善交流を行い国際交流の一翼を担った。

(7) 地域貢献事業の一層の推進

- ・地域協働センターを中心に、紫原地区をはじめとした近隣地域での地域貢献事業が定着してきた。
- ・心理相談センター及び発達支援センターは、外部機関の紹介による相談件数が増加し学内業務への影響も懸念されているが、業務とのバランスを取りながら地域貢献を推し進めていく。

3. 鹿児島女子短期大学

1. 事業計画の総評

平成 26 年度事業計画は、最終的に達成度 A ないし B の項目が 100%に達し、達成度 A の項目だけでも、全体のほぼ 3 分の 2 を占めた。これは何よりも、第三者評価受審に向けた全学的な取組の成果であり、9 月末の訪問調査後も改善を怠らなかったことの結果である。平成 27 年度は、第 2 次長期経営計画（2010-2015）の最終年度として有終の美を飾ると同時に、第 3 次計画に向けた全学的な準備を進める必要がある。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 教育内容の充実

- ・学習成果の可視化に向けて、カリキュラムマップの導入とシラバスの改訂が行われた。教職協働による学生の教育履歴等のデータ化についても検討中である。
- ・FD 活動については、FD 研修会の開催や委員の FD フォーラム派遣等に加え、学生の自己評価システム導入に向けて、学生による授業評価アンケートの見直しが IR 委員会で行われた。新設の FD 委員会が所掌し、今後更なる活動の充実を図る。

(2) 教育環境の整備・充実

- ・本館 3、4 階の講義室の机・椅子の更新と、博物館のリニューアルを行った。
- ・西館の耐震工事に合わせて、本館と西館の連絡通路の設置計画を検討した。

(3) 地域貢献

- ・新たに学長補佐（地域連携担当）を置いて地域連携センターを立ち上げ、「地（知）の拠点整備事業」（COC）の基盤作りを行った。特に、鹿児島市、奄美市、鹿児島県農業協同組合中央会と包括連携協定を締結し、年度内に外部評価委員会及び次年度計画を協議するプロジェクト委員会を開催できたのは大きな成果であった。
- ・南九州地域科学研究所における地域志向の研究活動を体験学習等のアクティブ・

- ラーニングに積極的に取り組んだ。(児童教育学科「WE LOVE 鹿児島!」、生活科学科食物栄養学専攻「教職実践演習」の畑作物栽培、加工プロジェクト等)
- ・学生主体のボランティア活動拠点である「絆工房シオンちゃん」が始動した。
 - ・博物館をリニューアルし、オープンキャンパスで企画展(「彫刻と絵画の二人展」)を実施した。

(4) 学生生活の充実

- ・学生からの要望に応えトイレや洗面所の不具合を解消、南館入り口付近をバリアフリー化するなど、生活環境が改善された。
- ・学習支援については、情報リテラシーを高めるための図書館ガイダンスの実施率が昨年度より高まった。
- ・すみれ寮では空調設備の取替や壁紙等の張り替え等の改善を図ったが、寮の更なる改善のため、学生アンケートを実施した。

(5) 志學館大学および附属幼稚園との連携

- ・附属幼稚園との連携については、新たな試みとして、児童教育学科1年生全員が6月の「キャリア・ガイダンス」の授業で三幼稚園を訪問し、園長講話を聞くなど、交流が一層進んだ。

(6) 学生募集対策及び就職支援

- ・学生募集対策として、従来の各種情報提供方法に加え、HPのリニューアル、3カ国語によるパンフレットの作成等、新たな広報活動も展開した。
- ・就職・進路支援では、機動的な就活促進のため、「就職試験内定における『先決』の考え方<協議案>(求人パターン別の取扱)」を作成、就職指導の指針をとりまとめた。また、キャリア相談室の活用促進のため「『キャリア(就職・進路)相談』利用アンケート」を実施・解析し、利用実態が把握できた。
- ・卒業生勤務の事業所を訪問する際の留意点をまとめ、マニュアル化に向けて検討を行った。

(7) リスク管理とコンプライアンスの徹底

- ・教員の研究活動の活性化について、教員評価のあり方を検討するための「教員評価WG」が設置され、評価システムの検討が行われた。来年度6月には答申が出される予定である。
- ・教授会後のコンプライアンス研修会を計4回開催した。

(8) 『WE LOVE 鹿児島!プロジェクト』事業の継承

- ・「WE LOVE 鹿児島!」をCOC科目の核として全学科で必修化した。さらに、児童教育学科では全教員で取り組む新体制を構築し、地域での体験学習を促進した。

4. 志學館高等部・中等部

1. 事業計画の総評

本年度も学園の「建学の精神」及び「ミッション（使命）」を基本として志學館中等部・高等部の「長期ビジョン」に則って「基本計画」を策定した。基本計画の4つの柱（1. 進学校としての教育活動の推進 2. 機能的な学校運営 3. 教育環境の充実と生徒・職員の健康・安全確保 4. 生徒数の安定確保）を重点項目として「事業計画」・「達成目標」に従ってそれぞれの担当グループのリーダーを中心に具体的行動に着手した。達成率60%以上の事業項目は、全体で約8割5分であり、堅調な進捗状況であった。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 進学校としての教育活動の推進

- ・指導力向上を目的として、各教科職員14名を県外の教育機関や進学予備校に派遣し、研修等の受講を推進した。研修成果については、普段の授業や今後の進学指導等にフィードバックされている。
- ・サマースクールなど、補習についても見直しを行い、実態に対応した選択制などを試行的に実施した。

(2) 機能的な学校運営

- ・進学関連の情報収集及び情報共有等の取り組みについては、積極的に推進されている。
- ・教職員の県外研修を積極的に推進し、その内容等については、各教科会及び校内研修会等でフィードバックされ、全教職員で共有されている。
- ・校務分掌の効率化、コンプライアンス研修会等の更なる充実についても、積極的に取り組んでいる。
- ・近年、教職員の世代交代が顕著であるが、良いものを引き継ぎ若い世代の教職員の意欲や積極的な取り組みを促したい。

(3) 教育環境の充実と生徒・職員の健康・安全確保

- ・教育環境の安全確保については、安全点検等を毎月確実に実施している。また、周辺の危険箇所や老朽化による施設設備の修繕も計画的に進めている。
- ・各寮においては寮生が増加傾向にある。充実した寮運営を行うため、補助スタッフの増員や指導のあり方についても順次検討していきたい

(4) 生徒数の安定確保

- ・オープンスクールは5回目の実施であったが参加者は昨年とほぼ同数であった。地方での学校説明会も視野に入れてさらに保護者及び卒業生との連絡・連携強化を図りたい。
- ・中途退学者をなくすための方策として、今後もスクールカウンセラーを配置し、校内研修会等を充実させて引き続き具体的な指導に活かしていきたい。
- ・高等部での進路変更が若干あったため、今後は担任・教科・学年等が連携を図りながら更に綿密な手立てを講じていきたい。

5. 鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園

1. 事業計画の総評

「園児一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな心や生きる力育てる幼稚園」を長期ビジョンに掲げ保育活動の充実を目指してきた。

この目標達成のためには、保育の質の向上、教育環境の整備の両面からの取り組みが重要であると考え日々経営の充実に努めてきた。

保育面では園務分掌の機能化と職員の協働態勢や意欲の向上、職員研修の充実を図りながら、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな指導に心掛けてきた。

教育環境整備の面では、夏休みを中心に実施した園庭補修、放送設備の整備、植木の剪定等を行った。園生活上の安全確保や行事の充実等に繋がり、教育活動充実の一翼を担っている。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・新カリキュラムに沿い、「目指す幼児の姿」を念頭に置き、「いきいき・にこにこ・のびのび」をキャッチフレーズに、共通実践事項を「挨拶・聞く態度・後片付け」として、園児一人ひとりの個性・発達に応じたきめ細かな指導を展開した。
- ・幼稚園評価の「学級における保育」の領域では、学期が進むにつれ評価が向上してきている。
- ・行事等については、目的・目標を設定し、改善を図りながら取り組んできた。行事を重ねるたび、子どもたちの心や体の成長が随所に見られるなど、充実した保育が展開されている。
- ・「英語で遊ぼう」・「水泳教室」・「サッカークラブ」・「バレエ教室」「音楽教室（今年度開設）」等の課外活動の充実に取り組んだ。保護者からも好評を得ており、満足度向上が図られている。
- ・短大とは主に教育実習及び教育相談の領域で連携を図っており、一定の成果が上がっている。
- ・園児募集対策については、未就園児クラブ（わんぱくキッズ）、一日体験入園、園庭開放、「かもめ幼稚園で遊ぼう（新規事業）」等の取り組みに加え、HPの充実等の広報活動により、本園の特色をアピールしてきた。全員でチラシ等のポスティングに取り組むなど、園児募集に対する職員の意識も高い。

(2) 教職員の資質向上

- ・県内外の研修会に積極的に参加し、職員の力量を高めてきた。また、なでしこ・すみれ幼稚園の研究保育にも代表が参加し、研鑽を深めた。
- ・研究保育については、今年度は8回実施した。研究の討議の在り方なども工夫し効果的な運営に努めつつ各自の力量を高めたい。
- ・園務分掌を明確にした運営に取り組んだ。各人が責任感と問題意識を持って仕事を進める意識が高まりつつあり、行事の改善や会議等の効率的な運営に取り組む姿勢を更に高めたい。勤務時間については、労働時間管理表を毎日提出させ意識を高めている。

(3) 教育環境の整備

- ・園庭の整備、植木の剪定、保育室・リズム室のテレビ放送設備の整備、園児椅子の購入等計画的に実施した。保育や行事の充実はもとより安全面や環境美化にも寄与している。
- ・安全管理については、毎月1回の安全点検の確実な実施に加え、外部委託による遊具安全点検も実施した。
- ・火災や地震、不審者等の非常事態に対する訓練を実施したことにより、園児・教職員の危機対処力も向上している。
- ・コンプライアンス研修会を定期的実施し、職員のコンプライアンス意識の向上を図った。

(4) 創立50周年記念事業

- ・記念誌を300部印刷し、4月に関係者への送付を完了した。主な内容は記念式典の様子、50年の歩み、幼稚園の現状等であったが、送付した関係者からは賛辞の言葉を多数いただいた。

6. 鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園

1. 事業計画の総評

「笑顔輝くなでしこ幼稚園」のキャッチフレーズを掲げ、保護者の信頼を高める幼稚園を目指し全職員の協調態勢のもと保育活動の充実をめざしてきた。

今年度も職員全員が元気に職務を遂行し、日々安定した保育を行うことができた。また、一層の保育の充実及び勤務時間の適性化を目指し、行事に関係した準備物等の見直し、スムーズな会議運営のために定刻開始・定刻終了等の意識付け、PDCAサイクルによる業務改善を図るなど、業務の精選に努めた。

更なる園児数増を目指し、8月の「夏季保育」へ未就園児の招待、園庭開放や未就園児クラブ（にこにこクラブ）の活動内容の充実や、案内広報・楽しい活動の様子の広報に努めるなど、募集・広報活動等も強化を図った。今後も、本年度の取り組みに加え、新たな活動を設定すると共に、入園に向けた丁寧な説明や対象保護者との連絡を密にするなどし、入園児の増加に取り組む。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・「教育課程」に基づいて作成された「週案」による保育が各クラスで計画的に実施された。
- ・「なでしこの森」を中核とした活動や近隣の施設を活用した園外保育等、自然に触れる体験活動を計画的に実施、英語活動や茶道教室も実施した。
- ・園児募集に向け、広報活動の充実や送迎バスの運行範囲の拡大に取り組んだ。
- ・HPについては、情報発信を積極的に実施し、更新回数も大幅に増加するなど、内容・運営体制ともに充実が図られた。
- ・幼稚園見学については、見学者の名前を記載したウェルカムボードを設置するな

どの取り組みを実施し、安心や親しみを感じられるように改善を図った。

- ・未就園児クラブ（にこにこクラブ）や園庭開放について、活動内容を工夫し会員数の増加を図った。

（2）教職員の資質向上

- ・園内研修では、全担任が保育指導案を作成し、研究保育を実施した。
- ・附属三幼稚園の共同研究に代表者が参加し、研鑽を深めた。
- ・業務改善に向け、資料・教具等の精選に努めた。また、大型プリンター等利便性の高い機器を活用して業務効率化を図った。
- ・今年度はコンプライアンス研修会を4回実施した。今後は内容についても精査を行い、効果の高い研修会の実施を図る。

（3）教育環境の充実

- ・総合遊具を含む施設・設備の整備・補修については、計画通りに実施され、教育環境の改善を図った。
- ・避難訓練等の安全確保に関する取り組みについては、関係機関と連携し計画的に実施できた。
- ・勤務時間の適正化に向け、各種資料を活用し職員の意識を高める事ができた。

7. 鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園

1. 事業計画の総評

「喜んで登園、満足して降園」を目標に、常に園児を第一義とし、一人ひとりを大切にする保育の充実に向け、協働体制で事業を推進してきた。経験年数の浅い教員が多いが、主任を中心に保育実践及び研修に励み、ほぼ順調な運営ができた。

5年目を迎えた2歳児クラスは、1クラス20名編成になり充実した運営ができた。

リズム室棟の改修工事及び大型遊具の設置や保育室の掲示板工事をはじめ、営繕工事等も計画的に実施でき、園児が楽しく安全に活動できる環境が整いつつある。HPや広報等の募集活動に一層努力するとともに、さらなる保育の充実に励み、信頼される幼稚園づくりに努めたい。

2. 基本計画の進捗状況

（1）特色ある幼稚園としての存続・発展

- ・業務改善を考慮しつつ、特に若手の担任は教育活動の充実のため、保育計画の立案の仕方から準備・保育の実践・評価のサイクルを学びながら、工夫した保育内容の展開を図った。
- ・今年度、送迎バス運行管理システムの運用にタブレット端末を導入した。バス運行中にリアルタイムでの対応が可能となり、保護者の満足度向上と事務改善に寄与している。
- ・緑のカーテン事業やイネ・イチゴ・ミニトマト・ナス・オクラ等の栽培、蝶やアイガモ・ジュウシマツなどの飼育、その他様々な園外活動等をとおして、体験的

活動の充実を図ってきた。

- 日々の保育の充実とともに未就園児クラブ（さくらんぼクラブ）、園庭開放、HP等による広報活動等を通して、より一層の園児増に務めた。
- (2) 教職員の資質向上
- 附属三幼稚園の夏季研修会や県内外の各種研究会等に積極的に参加し、教職員の資質向上に努めた。
 - 経験年数の浅いクラス担任への対応については、主任や先輩教員がリードしながら、日々の保育内容や業務内容に対して助言や指導を実施するなど、安心して仕事に取り組める支援体制を整えた。
- (3) 教育環境の充実
- 年少・年少少児のカバン棚、保育室の全面掲示板、リズム室棟の壁面改修工事、大型遊具の設置工事等、計画的に整備を実施し、園児が快適で安心して活動できる環境整備ができつつある。
 - 担任教諭の他、補助教諭 2 名、子育て支援担当 6 名が配置され、教育体制の充実が図られた。

8. なでしこ保育園

1. 事業計画の総評

保育理念「乳幼児の可能性をのばし豊かな心情や創造性を育て心身共に健全で有為な人格の発達を助長する。」を目指し、全職員の協調態勢のもと、工夫・改善しながら保育内容の充実に取り組むとともに、保護者に安心・信頼される園づくりに取り組んでいる。また、園内研修の充実を図るとともに、先進園への視察等の実践的な研修により、保育の充実と職員の資質向上にも努めている。

2. 基本計画の進捗状況

(1) 特色ある保育園としての存続・発展

- 「保育所保育指針」に基づいた保育課程、年間保育計画及び月間保育計画を策定のうへ、計画的な保育活動に取り組んだ。
- なでしこ幼稚園との交流保育、幼稚園バスを利用した園外保育、「なでしこの森」を中核とした自然に触れる体験活動を計画的に実施した。
- 栄養士と連携し、食育を目的とした、野菜の栽培やクッキング等の体験活動を計画的に実施した。

(2) 教育環境の充実

- 保育室内の備品や乳児用の遊具等を計画的に整備し、保育環境の充実を図った。
- 保育所内外の定期的な安全点検を実施し、安全管理に対する共通理解や体制づくりに取り組んだ。

(3) 職員の資質向上

- ・研修会や保育学習会へ積極的に参加し、保育の専門性を高めるよう取り組んだ。
- ・職員同士の信頼関係を深めると共に、業務効率化を推進し、快適で働きやすい職場環境づくりに努めた。

用語解説

【大学】

■eラーニング

ICT技術を用いて行う学習（学び）のこと。

■eポートフォリオ

個人のプロフィールや学習成果などを保存・整理し、共有することができる、総合データベースシステムのこと。学生の学習記録や、自発的な情報発信を共有・活用し、質の高い教育とキャリア支援を実現が可能となる。

■ステークホルダー

ステークホルダーとは組織の利害関係者をいうが、学校法人の場合は、学生・生徒・園児、保護者、教職員等、学校法人とかわりのある全ての人を指す。

■アドミッションポリシー

アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）は、各大学・学部が、その教育理念や特色を踏まえ、どのような教育活動を行い、またどのような能力や適性等を有する学生を求めているかなどの考えをまとめたものであり、入学者の選別方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されている。

【短大】

■FD

FD（ファカルティ・ディベロプメント）は、「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」のことであり、大学の授業改革のための組織的な取組みを指す。

■「We Love 鹿児島！」

平成17年度～20年度に短大で実施された現代GP事業。

■現代GP

「GP」とは、大学教育改革の“優れた取組み”という意味で国際的にも広く使われている「Good Practice」の略称。GP事業とは、各大学が自らの大学教育に工夫を凝らした優れた取組みで他の大学でも参考となるようなものを公募により選定する文部科学省の事業の通称。「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）等がある。なお、平成20年度からは、特色GP及び現代GPを統合した「質の高い大学教育推進プログラム」として実施されている。

【中・高】

■学力開発

進学校として何よりも学力の向上と定着を図り、自ら勉強する意欲と情熱をもった人間を育成することを目的とした取り組みのこと。

■人間性開発(SDP=Self Development Program)

中・高等部において、「豊かな感性と強い意志力をもち自主的・主体的に行動する人間」の育成を目指し、SDPの時間をはじめ適宜クラス単位、学年単位、あるいは全校単位での取り組みのこと。

【幼稚園】

■未就園児クラブ

未就園児の子どもを対象とした、保護者や同年代の子どもと幼稚園の雰囲気に触れてもらうことを目的とした取り組み。また園児募集活動の一環でもある。

■園庭開放

在園児ではない子どもに広く園庭を開放し、遊び場を提供する取り組み。未就園児クラブと同様、園の雰囲気に触れてもらうことも目的である。

V 財務の概要

1. 平成 26 年度決算の概要

消費収支計算書は、当該年度の消費収入と消費支出の内容及び収支の均衡を明らかにし、学園の経営状況の健全性を示すものであり、企業会計における損益計算書に類似したものである。

資金収支計算書は当該年度 1 年間の資金の収入・支出のてん末を明らかにしたものである。

【消費収支計算書】

当期の概況について、前年度と対比し主な増減について説明すると、消費収入の部における帰属収入は 3,691,514 千円で、前年度より 58,316 千円の収入増となった。

主な要因は、学生生徒納付金収入と補助金収入の増加によるものであった。

消費支出の部合計は 5,088,532 千円で、霧島キャンパスの跡地を売却した資産処分差額 1,832,400 千円等により、前年度より 1,847,194 千円の支出増となった。

この結果、消費収支上は 1,397,018 千円の大幅な赤字となったが、特別損失である資産処分差額を除外すると、帰属収支差額は 413,843 千円となり、前年度に対し 21,984 千円の増益となった。

収入及び支出の対前年度比較については、次のとおりである。

(収入)

学生生徒等納付金は、学生生徒園児数が対前年度比で 69 人増加し 3,342 人となったことにより、22,927 千円の収入増となった。補助金は、教育研究活性化設備整備事業補助金（大学、短大）等の競争的補助金における採択件数の増加に伴う補助金の増額や、私立大学等改革総合支援事業（大学、短大）の選定に伴う経常費補助金の増額加算等により、48,437 千円の収入増であった。雑収入は、私大退職財団からの交付金収入の減少等により 21,901 千円の収入減となった。

(支出)

教育研究経費は、耐震補強工事（大学学生会館、短大西館）に伴う 54,756 千円の支出増、大型設備投資（前年度建設の大学体育館等）に伴う減価償却費 36,928 千円の支出増等により、83,125 千円の支出増であった。管理経費は、霧島キャンパス跡地売却に伴う減価償却費 63,036 千円の支出減及び消費税 27,419 千円支出増等により、32,844 千円の支出減となった。

(帰属収支差額)

平成 26 年度の帰属収支差額は、特別損失を除くと 413,843 千円となり、21,984 千円の増益となり、長期経営計画（2010 - 2015）の平成 26 年度予想額 379,328 千円を 34,515 千円上回った。

【資金収支計算書】

(収入)

学生生徒等納付金収入 2,523,135 千円、補助金収入 858,080 千円、資産売却収入 501,518 千円、事業収入 123,847 千円、前受金収入 436,308 千円等により、収入の部合計は 4,971,195 千円であった。

(支出)

人件費支出 2,045,500 千円、教育研究経費支出 617,890 千円、管理経費支出 237,591 千円、借入金等返済支出 213,400 千円、施設関係支出 126,715 千円、設備関係支出 126,501 千円等により、支出合計額は 3,740,593 千円であった。

収支の結果、平成 26 年度の次年度繰越支払資金は、1,230,602 千円（対前年度比＋477,787 千円）となった。

【貸借対照表】

固定資産は、霧島キャンパス跡地の売却により土地と建物で 2,400,354 千円減少した。

流動資産の現金預金は、霧島キャンパス跡地の売却収入 380,000 千円に伴う現預金増加等により、前年度より 477,787 千円増加した。

基本金の組入は、第 1 号基本金が 421,097 千円、第 2 号基本金が 140,000 千円増加し、合計 561,097 千円の組入増となった。

資産総額は前年度と比べ霧島キャンパス跡地売却により 1,768,140 千円減少し、負債総額は借入金返済等により 307,082 千円減少した。

平成 26 年度末の運用資産（預金、有価証券、特定資産）は 1,773,226 千円となり、借入金残高は 213,400 千円減少し 756,320 千円となった。

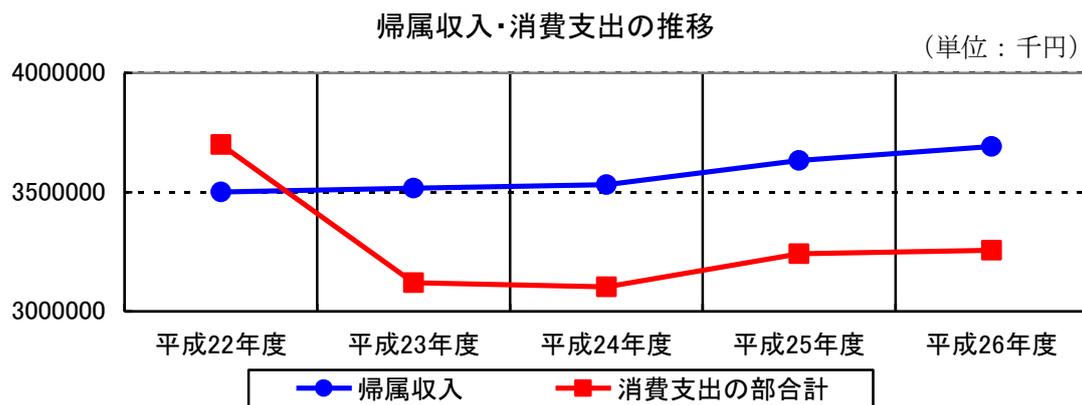
これらの結果、本学園の積立率は前年度の 16.9%から 31.6%へ大幅に向上した。

2. 消費収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生生徒等納付金	2,384,725	2,481,220	2,452,918	2,500,209	2,523,136
手数料	38,747	36,994	37,866	36,079	35,200
寄付金	9,386	9,630	14,403	16,228	16,032
補助金	799,793	743,506	781,982	809,643	858,080
資産運用収入	6,316	12,111	14,737	7,836	11,680
資産売却差額	8,490	5,421	25,406	15,438	21,537
事業収入	106,196	104,984	115,841	123,861	123,847
雑収入	147,169	122,878	87,605	123,904	102,002
帰属収入	3,500,822	3,516,744	3,530,758	3,633,198	3,691,514
基本金組入額合計	△ 49,228	△ 231,285	△ 342,755	△ 1,336,206	△ 574,991
消費収入の部合計	3,451,594	3,285,459	3,188,003	2,296,992	3,116,523
科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費	2,600,431	1,989,681	2,010,775	2,075,286	2,031,446
教育研究経費	761,812	736,536	737,487	827,500	910,626
管理経費	274,740	301,682	324,396	321,663	288,819
借入金等利息	32,748	21,916	17,888	13,560	7,891
資産処分差額	24,279	58,886	0	0	1,832,400
徴収不能額(引当含)	6,139	11,576	12,337	3,329	17,351
消費支出の部合計	3,700,149	3,120,277	3,102,883	3,241,338	5,088,533
当年度消費収入超過額	△ 248,555	165,182	85,120	△ 944,346	△ 1,972,010
前年度繰越消費支出超過額	4,134,253	1,500,621	1,171,656	1,014,745	1,942,491
基本金取崩額	2,882,187	163,783	71,791	16,601	13,893
翌年度繰越消費支出超過額	1,500,621	1,171,656	1,014,745	1,942,490	3,900,608
帰属収支差額	△ 199,327	396,467	427,875	391,860	△ 1,397,019
帰属収支差額(特損等除)	△ 183,538	449,932	402,469	376,422	413,844

注) 22年度帰属収支差額マイナスは、退職給与引当計上割合100%組入582,635千円が主な要因である。



※平成26年度は、霧島キャンパス売却による特別損失を除く。

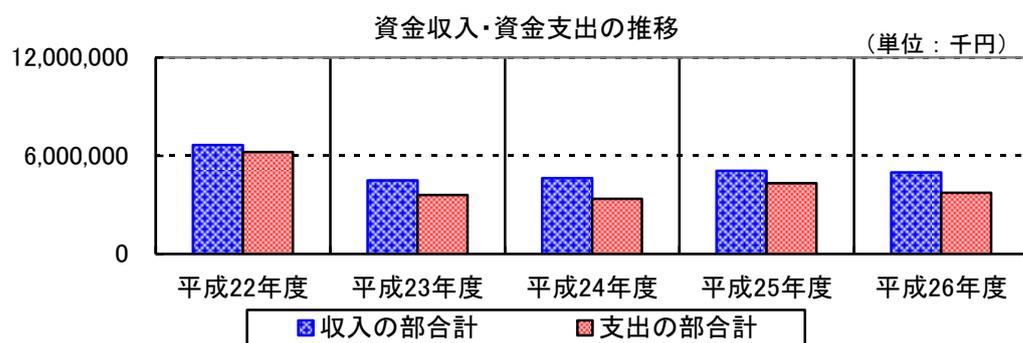
3. 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学生生徒等納付金収入	2,384,725	2,481,220	2,452,918	2,500,209	2,523,135
手数料収入	38,747	36,994	37,866	36,079	35,200
寄付金収入	3,497	3,513	5,526	11,738	13,090
補助金収入	799,793	743,506	781,982	809,643	858,080
資産運用収入	6,316	12,111	14,737	7,836	11,680
資産売却収入	1,445,105	449,868	224,085	112,042	501,518
事業収入	106,196	104,984	115,841	123,861	123,847
雑収入	147,169	122,877	87,605	123,904	102,002
借入金等収入	800,000	100,000	0	0	0
前受金収入	528,394	466,642	467,635	459,760	436,309
その他の収入	260,415	230,850	165,284	302,927	243,514
資金収入調整勘定	△ 726,788	△ 690,429	△ 619,891	△ 657,586	△ 629,995
前年度繰越支払資金	853,203	424,455	887,653	1,248,139	752,815
収入の部合計	6,646,772	4,486,591	4,621,241	5,078,552	4,971,195

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人件費支出	2,084,262	2,046,155	2,010,609	2,073,673	2,045,500
教育研究経費支出	505,456	502,280	499,578	572,130	617,890
管理経費支出	221,524	196,810	219,295	206,193	237,592
借入金等利息支出	32,748	21,917	17,888	13,560	7,891
借入金等返済支出	664,500	329,960	213,400	213,400	213,400
施設関係支出	1,053,111	23,044	141,233	822,814	126,715
設備関係支出	157,524	65,693	132,971	190,504	126,502
資産運用支出	1,545,307	403,838	224,730	384,999	311,257
その他の支出	186,130	220,758	204,473	172,258	306,752
資金支出調整勘定	△ 228,245	△ 211,517	△ 291,075	△ 323,794	△ 252,906
次年度繰越支払資金	424,455	887,653	1,248,139	752,815	1,230,602
支出の部合計	6,646,772	4,486,591	4,621,241	5,078,552	4,971,195

注) 平成 22 年度は、大学移転に伴う借入金及び施設設備関係支出を含む。



4. 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定資産	16,245,163	15,897,093	15,857,084	16,644,675	14,426,162
有形固定資産	16,032,925	15,678,352	15,608,717	16,242,545	13,884,186
その他の固定資産	212,238	218,741	248,367	402,130	541,976
流動資産	715,975	1,097,798	1,444,631	981,299	1,431,671
資産の部合計	16,961,138	16,994,891	17,301,715	17,625,974	15,857,833

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固定負債	2,397,138	2,128,479	2,040,827	1,847,333	1,616,674
流動負債	1,016,654	922,600	889,201	1,015,093	938,670
負債の部合計	3,413,792	3,051,079	2,930,028	2,862,426	2,555,344

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
第1号基本金	14,717,162	14,784,589	15,055,554	16,235,159	16,656,257
第2号基本金	0	0	0	140,000	280,000
第3号基本金	49,761	49,835	49,835	49,835	49,835
第4号基本金	281,044	281,044	281,044	281,044	281,044
基本金の部合計	15,047,967	15,115,468	15,386,433	16,706,038	17,267,136

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
翌年度繰越消費支出超過額	1,500,621	1,171,656	1,014,745	1,942,490	3,964,647
消費収支差額の部合計	△ 1,500,621	△ 1,171,656	△ 1,014,745	△ 1,942,490	△ 3,964,647

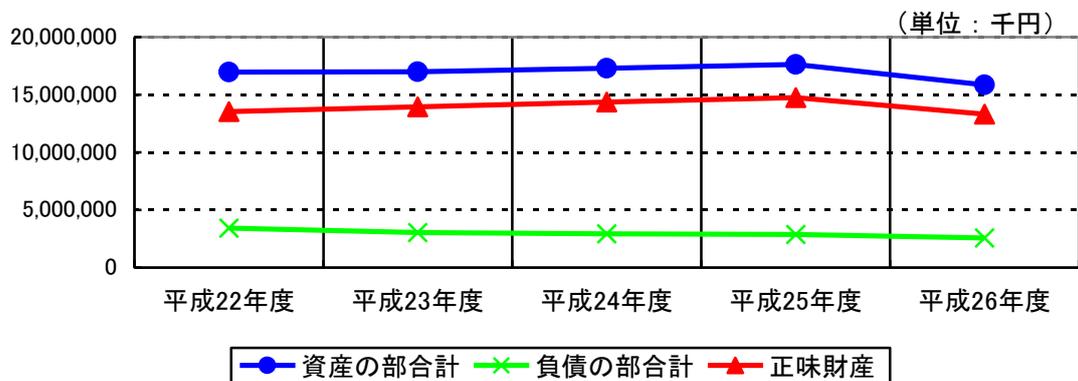
科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
負債、基本金、消費収支差額の部合計	16,961,138	16,994,891	17,301,716	17,625,974	15,857,833

【参考】

正味財産	13,547,346	13,943,812	14,371,687	14,763,548	13,302,489
------	------------	------------	------------	------------	------------

注) 平成22年度の第1号基本金の減少は、大学霧島キャンパスの固定資産を基本財産から運用財産へ移管したことによる基本金取崩のため。

資産・負債・正味財産の推移



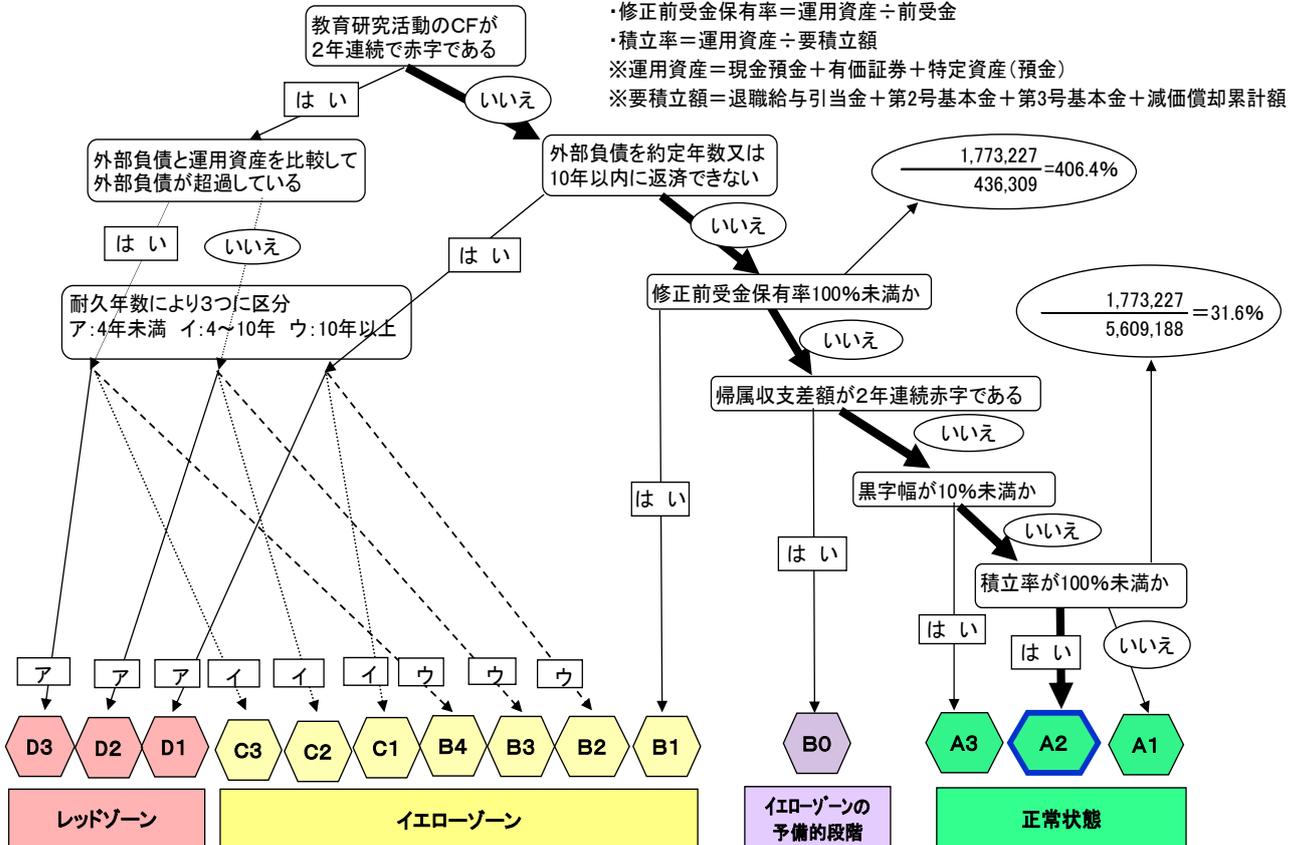
5 定量的な経営判断指標に基づく経営状態

志學館学園 経営判断指標判定表

判定	A2	A1	A2	A2	A2	
(単位:千円)						
I 教育研究活動によるキャッシュフロー	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	収入(A)	3,521,981	3,443,218	3,497,469	3,605,395	3,643,584
	支出(B)	2,843,990	2,767,162	2,747,370	2,865,557	2,908,873
	C=A-B	677,991	676,056	750,099	739,838	734,711
	C/A	19.3%	19.6%	21.4%	20.5%	20.2%
判定	○	○	○	○	○	
II 運用資産と外部負債の関係	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	運用資産(D)	659,671	1,129,928	1,510,921	1,149,699	1,773,227
	外部負債(E)	1,867,839	1,626,127	1,499,296	1,444,249	1,178,237
	F=D-E	△ 1,208,168	△ 496,199	11,625	△ 294,550	594,990
	C<0且つF>0の時 F÷C(単位:年) C>0且つF<0の時 F÷C(単位:年)			運用資産が上回っているため、年数は記載しない。		運用資産が上回っているため、年数は記載しない。
	1.8	0.7		0.4		
III 帰属収支差額 (資産売却差額及び資産処分差額を除く)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	帰属収入(G)	3,492,332	3,511,322	3,505,352	3,617,760	3,669,977
	消費支出(H)	3,675,870	3,061,392	3,102,883	3,241,338	3,256,133
	I=G-H	△ 183,538	449,930	402,469	376,422	413,844
	I/G	△ 5.3%	12.8%	11.5%	10.4%	11.2%
判定	×	○	○	○	○	

注1) 平成22年度帰属収支差額比率△5.3%は、退職給与引当金計上基準の変更による100%組入の582,635千円を一括実施したことによる。100%組入を行わなかった場合は11.0%である。

注2) 定量的な経営判断指標は平成24年度に精緻化され、7区分から14区分へ変更になった。



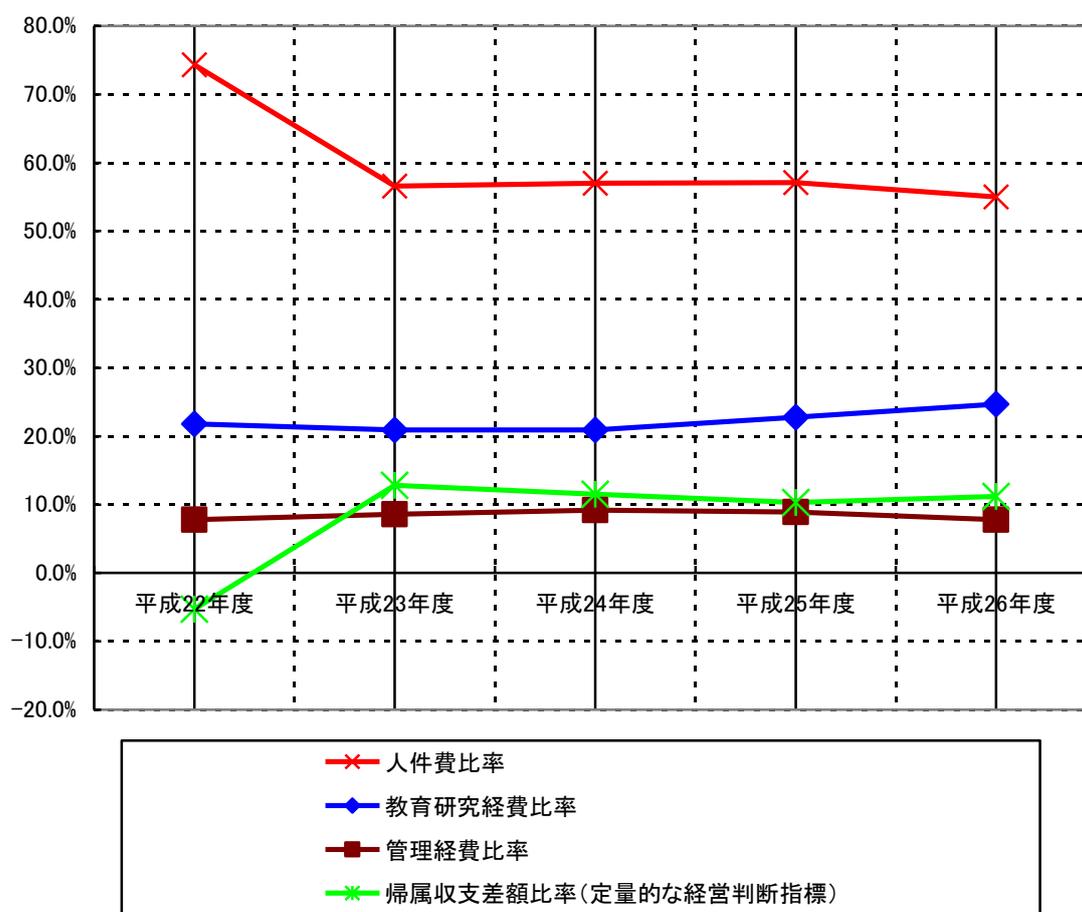
6 財務分析

	分析項目	22度	23度	24度	25度	26度	大学法人 全国平均	
1	人件費比率	注②74.3%	56.6%	57.0%	57.1%	55.0%	52.4%	▼
2	教育研究経費比率	21.8%	20.9%	20.9%	22.8%	24.7%	31.5%	△
3	管理経費比率	7.8%	8.6%	9.2%	8.9%	7.8%	8.8%	▼
4	帰属収支差額比率	△5.7%	11.3%	12.1%	10.8%	-37.8%	5.2%	△
5	文部科学省 定量的な 経営判断指標 帰属収支差額比率 (資産売却, 資産処分差額除く)	△5.3% A2	12.8% A1	11.5% A2	10.4% A2	11.2% A2	-	

注①) 全国平均出典：平成26年度版日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より。(25年度のData)
△・・・高い値が良い ▼・・・低い値が良い

注②) 平成22年度人件費比率74.3%は退職給与引当金計上基準100%組入一括実施のため。
退職給与引当金組入100%を行わない場合は57.6%である。

注③) 定量的な経営判断指標は平成24年度に精緻化され、7区分から14区分へ変更になった。



【学校法人会計用語解説】

○帰属収入

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金等の当該年度の学園の負債とならない収入を言います。したがって、借入金や前受金（次年度入学者の学納金を前年度の3/31までに収受すること）などの負債性のある資金は除きます。

○消費支出

人件費、教育研究経費、管理経費、借入金利息等の当該年度に発生した費用です。資金支出の他に退職給与引当金繰入額や減価償却額が含まれます。

○基本金

学校法人が教育研究活動を行うには、校地、校舎、機器備品、図書、現金預金等の資産をもち、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。

- ・第1号基本金・・・校地、校舎、機器備品、図書等の固定資産の取得価額
- ・第2号基本金・・・将来の新規投資に充てるため積み立てた資産に見合う額を計画的に組入れること
- ・第3号基本金・・・奨学基金の資産の額
- ・第4号基本金・・・運営に必要な運転資金の額（文部科学大臣の定める額）

○帰属収支差額（企業会計における当期利益にほぼ相当）

帰属収入から消費支出を差し引いた額のことです。この金額がプラスに大きくなるほど自己資金が充実されていることとなり、マイナスが大きくなるほど経営は窮迫し、いずれは資金繰りに困難をきたすこととなります。現在は、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団とも帰属収支差額を利益の判断基準にしています。

○貸借対照表

一定時点（3月31日・決算日）における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及びあり高を明示し、学校法人財産状況を明らかにするものです。

○財産目録

貸借対照表の資産や負債について、科目ごとに具体的内容を表し、学校法人が所有する土地や建物の面積などを明らかにしたものです。法務局への登記が義務付けられています。

監査報告書

平成27年5月19日

学校法人志學館学園
理事会 御中

学校法人 志學館学園

監事 海江田順三郎 

監事 天津 学 

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人志學館学園の寄附行為第15条の規定に従い、学校法人志學館学園の平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上